

ししぶ駅界限 1 | モニュメントが語る鹿部の歴史と自然



ししぶ駅東口のモニュメント

J R 鹿児島本線の福工大前駅と古賀駅との間に二つの駅がつくられることになり、平成 21 年 (2009) 3 月にししぶ駅が開業した。もう一つは新宮中央駅である。

ししぶ駅東口の広場にはモニュメントと記念碑が建っている。メインのモニュメントは、かつてこの地にあった鹿部大池 (通称レンコン池) をしのいで、蓮・蓮根をイメージし、中に過去と現在、未来を往来する「窓」を表現しているという。その周りの 8 本の柱は、糟屋屯倉の候補地である鹿部田淵遺跡の大型建物をイメージしたものである。そしてその柱上には経筒、甲冑、蜻蛉、貝殻、鮎、稲、鶯、蓮のオブジェが乗っている。

この一帯は大池や丘陵地・水田等だったところだが、団地造成のため景観が一変してしまった。その為、かつての歴史や風景をこのオブジェで記憶にとどめておこうとしてつくられたものである。



三上山の頃の鹿部山 (昭和 40 年頃)



ししぶ駅より見る現在の鹿部山

経筒が見つかったのは鹿部山で、山は、東、中、西の三つの峯を持った美しい山で、椿山とか、向こうの山（駅側から見て）などと古賀市民から呼ばれて親しまれてきた。昭和47年（1972）から始まった花鶴丘団地の造成で、東と中の二峯は削られ、その土砂で水田が埋められて消滅してしまったが、皇石宮のある西の峯は残され、今は鹿部山公園として市民の憩いの場となっている。

造成前の昭和46年（1971）2月、中の峯の頂上付近で、経塚とおぼしきところから、石の容器に入った銅製の経筒や青磁の合子ごうす、皿などが見つかった。経筒は直径10cm、高さ26cmの



古賀市・鹿部山 経筒 12世紀

鑄銅製有節経筒



蓮



経筒

ちゅうどうせいゆうせつきょうづつ
鑄銅製有節経筒だった。中の經典は炭化していた。経筒の胴部には筑前国席内院・父々夫峯・永久元年（1113）といった文字が点刻されていた。父々夫はちちぶであろう。いまこの山や一带は鹿部の字があてられている。

鹿部山には皇石宮（皇石神社）があり、神社のご神体は2.5mの大石である。明治31年旧正月にこの付近からあわせくちかめかん
合口甕棺がみつきり、中から銅剣、銅戈が出てきた。銅戈は経筒と共に、古賀市立歴史資料館に展示されている。



皇石宮（銅戈）